

■高原の處女 (六卷)

帝キネ普屋映畫

原作者 福田 正夫氏
脚色者 佃 血秋氏
監督者 松本 英一氏
撮影者 保田 康氏

主要役割

草山美代子 鈴木 信子嬢
母 お千代 歌川八重子嬢
谷阿 民雄 里見 明氏
その父 小島 洋々氏
「しなのや」主人 露吉 伊奈 淳兆氏

解説——新潮社出版の福田正夫氏の小説を映
畫化したもので、松本英一氏の「己が罪」の次
の作品である。

略筋——高原の温泉町の小料理屋「しなのや」
の派お美代は評判の美人だったが、彼女の想出
は悲しい事の連続であつた。無情な夫に捨てら
れた彼女の母は彼女の乳呑兒の頃、死所を求め
てさすらふ中に、此家の亭主に救はれたのであ
つた。獸の様な男に肉を賣つた母は生活の疲れ
で間もなくあの世の人となつた。母の事を思ふ
につけ彼女は男さいふのを呪はしく考へられ
たが彼女はふさ一人の戀人を得た。それは此高



原へ保護に来て居る青年民雄であつた。青年も
此純潔な乙女を愛したがやがて青年の歸京の時
が来た。都に歸つても彼女を忘れ得ぬ青年は、
再び病床の人となつた。同じ心の美代子が彼を
墓つて上京した時民雄は残り少い生命を保つて
居たが、何たる運命の惡戯か二人は兄妹であつ
た。彼女は民雄の父が昔自分の母を捨てた男で
あるを知つて其處を去つた間もなく民雄は靜か
かに死んで行き彼女も再び高原へ連れ歸られたの
である。